

研究課題名	【演題番号 13】 固形食物による消化管アレルギーの予後予測因子についての研究
フリガナ	マキタ エイシ
代表者名	牧田 英士
所属機関（機関名） （役職名）	自治医科大学附属さいたま医療センター小児科 講師
本助成金による発表 論文，学会発表	牧田英士、黒田早恵、板橋佳恵、菅原大輔、市橋光：卵黄 FPIES の短期予後予測における血清 TARC 値の有用性、第 71 回日本アレルギー学会学術大会、2022 年 10 月 7-9 日、東京

研究結果要約

消化管アレルギー Food protein induced enterocolitis syndrome (FPIES) は特定の食物を摂取した後に嘔吐などの消化器症状のみを呈するアレルギー性疾患であるが、診断や予後予測のためのバイオマーカーは確立されていない。本研究では固形食物 FPIES の予後予測に有用なバイオマーカーについて検討した。まず、FPIES の急性期に上昇するバイオマーカーの探索のために、TARC、MMP3、SCCA2、プロカルシトニン (PCT) を候補に挙げ負荷試験陽性症例の症状出現前後で測定したところ、TARC、MMP3、PCT が有意に上昇していた。次に、TARC、MMP3、PCT が FPIES の疾患特異的なマーカーであるか、他疾患との鑑別に有用であるかを調べるために、FPIES 群と対照群 (感染性胃腸炎・敗血症) で比較検討を行った。結果はいずれも FPIES 群で有意に高値だったが、ROC 解析により特に TARC と MMP3 が有用であることがわかった。これらの結果を基に、FPIES の急性期の TARC、MMP3、PCT と次回 (約 1 年後) の負荷試験結果 (寛解の有無) との関連を調査したところ、次回負荷試験陽性群は陰性群よりも TARC は有意に高値で、MMP3 と PCT は統計学的有意差を認めないものの次回負荷試験陽性群の方が高値であった。今後、症例集積を継続し、長期予後についても検討を行う方針である。FPIES の診断や予後予測に有用なバイオマーカーの確立により、診療の向上が期待される。